

いなりやまたてあと 稲荷山館跡 (第3次)

遺跡番号 202-405
調査回数 第3次
所在地 山形県米沢市万世町梓山字稲荷山
北緯・東経 37度53分39秒・140度09分45秒
調査委託者 国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
起因事業 一般国道13号米沢拡幅
調査面積 450㎡
受託期間 平成23年8月22日～平成24年3月31日
現地調査 平成23年8月25日～9月22日
調査担当者 渡辺和行(現場責任者)・伊藤大介
調査協力 米沢市教育委員会・置賜教育事務所
遺跡種別 城館跡
時代 中世・近世
遺構 堀跡・土塁・柱穴・井戸跡
遺物 陶磁器・銅銭・ガラス瓶・蹄鉄 (文化財認定箱数：6箱)



図1 遺跡位置図 (1:50,000)

稲荷山館跡は、市街地から東南方向に約6km離れた万世町梓山地区に所在する。伝承によれば長井氏の家臣であった熊坂利衛門くまざかりえもん ちくじょうの築城とされ、伊達氏の置賜侵攻の際最後まで抵抗したと伝えられている。今回、一般国道13号米沢拡幅に伴い発掘調査を実施することとなった。

本調査では土塁と堀跡が主要な遺構として認知されていたが、その他に井戸跡と考えられる土坑が1基、柱穴が21基確認された。

柱穴については建物を組める配置には至らなかったが、殆どの柱穴が南側に集中しており、調査区外の南側

に何らかの施設が存在した可能性がある。また井戸跡は柱穴が多く確認された場所の近くから見つかっている。

土塁は高さが遺構の検出面から約1.8m、幅は約5mあり、構築方法は版築工法はんちくではなく、土塁の西側に並行して堀を掘削し、その残土をそのまま積み上げる方法で築かれている。堀跡は幅約5m、深さは約80cmある。

遺物のほとんどは堀跡から出土している。年代はいずれも近世のものと考えられ、堀が中世以降継続して利用されてきたことが考えられる。



写真1 堀跡完掘状況(西から)